SYLLABUS

2025

別府市医師会立別府青山看護学校

3 年課程

専門分野

授業計画

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践、看護学領域別の臨地実習を基本の領域とし、それぞれに科目を設定しています。また、各領域と密接な関係をもつ 7 つの領域横断科目を設定しています。総計 53 科目（66 単位）で構成しています。

基礎看護学は、総計 9 科目（11 単位）で構成し、看護の基礎的理論や安全で安楽な看護を提供するための基本的看護技術、看護の展開方法を学びます。また、専門基礎分野の知識を活用して科学的根拠に基づいた看護実践を導くために、患者を想定したシミュレーション演習を多く取り入れながら、気づきを看護専門職の臨床判断につなげるための授業を展開していきます。

地域・在宅看護論は、総計 5 科目（5 単位）で構成し、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で多職種と連携・協働しながら看護を実践するための能力を養うための基礎を学び、実習は地域に暮らす人々の様々な活動の場、生活の場で展開します。少子・高齢社会の進展とともに需給が増している看護師の役割が期待される分野です。

成人看護学 5 科目（5 単位）、老年看護学 3 科目（3 単位）、小児看護学 3 科目（3 単位）は、発達段階別の看護に加え治療が必要な人々に対する看護を健康段階別に学ぶ領域です。講義をとおして成長発達を理解し、様々な発達段階・健康状態にある人々に対する看護の方法を学び、実習をとおして看護実践能力につなぎます。さらに、実習をとおしては、安心・安全を保障する援助の実践を積み重ねます。

母性看護学 3 科目（3 単位）では、女性のライフサイクルの健康に対応する能力を養います。また、実習ではマタニティサイクル期にある母子とその家族を総合的に理解し人間の生命の誕生と尊厳について考え、人間をかけがえのない存在として理解していくための過程をたどります。

精神看護学 3 科目（3 単位）では、精神機能に対応する能力を養うための知識を深めます。実習をとおしては、対象との関係を丁寧に振り返り、自分自身の行動が対象に与える影響について深く考え自分の傾向を見つめていきます。これらの過程をとおして援助的人間関係や治療的コミュニケーションについて学びを深めていきます。

看護の統合と実践は 3 科目（3 単位）で構成し、医療安全をはじめチーム医療における看護マネジメントや多職種と連携・協働するための基礎的知識と実践力を身につけます。いよいよ看護師として活躍する直前の重要な科目です。

また、各看護学において共通する 7 科目（7 単位）の領域横断科目を設定し、包括的、継続的な看護を展開するための知識を身につけます。領域横断科目は、看護師独自の専門性をもつ判断力や多職種と連携・協働する力を身につけるために欠かせない科目となります。

各看護学領域の臨地実習は総計 12 科目（23 単位）で構成し、講義で学んだ知識・技術・態度を実践の場で活かし理論と実践を結びつけます。看護の対象を前に展開する実習は看護師としても、人としても成長できる貴重なものとなります。

実習をとおして理論と実践を統合した後に履修する地域・在宅看護論Ⅳでは、事例をとおして人々が住み慣れた地域で暮らすための多職種と連携・協働にある支援についてまとめます。同じく、看護実践演習では複雑な状況下での看護場面を想定した演習をとおして看護実践力に導き、3 年間の学びをまとめ看護師国家試験に臨みます。

専門分野を構成する領域

基礎看護学
領域横断
地域・在宅看護論
成人看護学
老年看護学
小児看護学
母性看護学
精神看護学
看護の統合と実践
臨地実習

基礎看護学

基礎看護技術　一覧

（別紙　基礎看護技術一覧　参照）

基礎看護技術　評価計画

科目	単元	講師名	単位	時間	講義時間	評価			科目点数の考え方
						評価点数	評価方法	評価時間	
基本看護技術Ⅰ	技術とは	塩田和泉	1	30	2	10	筆記試験	1	総点を科目点数とする。
	コミュニケーション				2				
	観察・記録・報告	田中要子			2	20			
	フィジカルアセスメント				24	40			
						30	技術試験（バイタルサイン測定）	1	
							総時間数	32	
基本看護技術Ⅱ	看護過程	岡部裕美	1	30	20	50	筆記試験	1	総点を科目点数とする。
	感染予防と安全管理	田中要子			10	50			
							総時間数	31	
日常生活援助技術Ⅰ	活動と休息	田中要子	1	30	12	40	筆記試験	1	総点を科目点数とする。
	安楽確保				4	10			
	環境調整	芦刈美佳			14	20			
						30	技術試験（リネン交換）	1	
							総時間数	32	
日常生活援助技術Ⅱ	食事	芦刈美佳	2	60	12	40	筆記試験	1	合計点を100点に換算する。
	排泄	服平敏枝			20	60			
	清潔と衣生活	芦刈美佳			28	70			
						30	技術試験（全身清拭）	1	
							総時間数	62	
診療時補助技術	与薬	塩田和泉	2	60	26	90	筆記試験	1	合計点を100点に換算する。
	創傷管理				4	10			
	呼吸・循環を整える技術				12	30			
	検査				12	30			
	採血				6	10			
						30	技術試験（真空採血管採血）	1	
							総時間数	62	

科目区分	専門分野	科目名	看護学概論	単位	1単位
対象学年	1学年	学期	前期	時間	30時間
担当教員	木畑　孝子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校　専任教員		
目的	看護の本質、看護の対象となる人間の理解を深め、看護師としてのものの見かた考え方について学ぶ。				
目標	1．看護の歴史や看護活動の実際を通して、看護の機能や役割が理解できる。 2．主な看護理論にある、人間、健康、環境、看護のとらえ方を理解する。 3．看護について学ぶことにより看護に対する関心や意欲を高めることができる。 4．看護を実践する上で、気づきが重要となることを理解できる。				DPへの対応 ＤＰ4 ＤＰ１、2 ＤＰ6 ＤＰ１、２、3

授業回数〔方法〕		内容	使用教材	授業に関する準備学習
第　1　回〔講義〕	到達目標	看護学概論で何を学ぶのかを理解する。	テキスト p10～38、配布資料	どんな看護師になりたいかまとめる。
	授業予定	ガイダンス 看護とは、看護を行うために必要なこと		
第　2　回〔講義〕	到達目標	看護の役割と機能について説明できる。	テキスト p39～74、配布資料	テキストを読んでおく。
	授業予定	役割と機能、ケアとは、ケアの本質		
第　3　回〔講義〕	到達目標	看護の対象である人間について考えることができる。	テキスト p78～109、配布資料	テキストの看護の対象をよんでおく。
	授業予定	人間とは、環境とは、成長と発達、ライフサイクルと発達課題、心理と欲求、社会の中の生活者、統合体としての人間について説明する。		
第　4　回〔講義〕	到達目標	健康とは何かを説明できる。 保健統計から国民の健康について説明することができる。	テキスト p108～133、66 配布資料	テキストに目をとおす。
	授業予定	健康とは何か、障害とは、健康の推進、健康と生活の関連医療を取り巻く社会状況、健康状態と受療状況、国民のライフサイクル		
第　5　回〔講義〕	到達目標	看護の発展について思考できる。	テキスト p138～149、配布資料	テキストに目をとおす。
	授業予定	西洋における宗教的看護、看護の暗黒時代、ナイチンゲールの功績、日本の看護をとおして説明する。		
第　6　回 第　7　回 第　8　回〔講義演習〕	到達目標	ナイチンゲール「看護覚書」を理解する。 ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を理解する。	テキスト p25～26、p31～45、配布資料 ＧＷでまとめた資料	看護覚書」ナイチンゲールを読む。 「看護の基本となるもの」ヘンダーソンを読む。
	授業予定	・ＧＷでナイチンゲール「看護覚書」を熟読し、環境を整えることがどうして自然治癒力を引き出すことになるのか、看護は対象の生命力の消耗を最小にするように整えること、とはどういう意味かまとめる。 ・ＧＷでヘンダーソン「看護の基本となるもの」を熟読し、看護師の独自の機能および基本的欲求と看護をまとめる。		
第　9　回 第　10　回 第　11　回〔講義演習〕	到達目標	看護理論を調べ、理論家の考える看護を理解する。	テキスト p31～45、配布資料 ＧＷでまとめた資料	担当になった理論について熟読する。
	授業予定	ＧＷでオレム「オレム看護論」、ペプロウ「人間関係の看護論」、トラベルビー「人間対人間の看護」、ワトソン「ワトソン看護論」、キング「キング看護理論」、ベナー「ベナー看護論」をまとめる。		
第　12　回 第　13　回〔講義〕	到達目標	健康障害の経過と経過別看護の考え方を理解する。	臨床看護総論 p58、配布資料	テキストを読んでおく。
	授業予定	急性期、回復期、慢性期、リハビリテーション期、終末期における健康状態を理解する。		

第　１４　回 〔 講 義 〕	到達目標	看護職者の継続教育とキャリア開発について理解する。	テ キ ス ト p162～178、 配布資料	テキストに目をとおす。
	授業予定	専門職とは、看護職の養成制度、看護における継続教育、キヤリア開発		
第　１５　回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準　:履修規程 28 条に規定する評価基準による。 方法　:筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テ キ ス ト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　看護学概論　医学書院 ナイチンゲール「看護覚書」現代社 ヘンダーソン「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 黒田裕子「優しく学ぶ看護理論」日総研		
	参 考 図 書	国民衛生の動向　厚生統計協会		
	そ の 他	ビジュラン　看護教育概論　vol2　日本の看護　ＧＨＱによる看護改革		
授業以外の学習方法		「看護とは」「看護師とは」を折に触れ考えるようにしましょう。		
履修上の留意点		授業に必要な事前学習にしっかり取り組むこと、また、グループワークでは自分の考えを述べ、記述できるようにしましょう。		

科目区分	専門分野	科　目　名	看護倫理	単　　位	1単位
対象学年	1学年	学　　期	後期	時　　間	15時間
担当教員	甲斐 有美子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 看護師養成所専任教員経験		
目　　的	よい看護、よい看護師を目指して、自らが看護実践の在り方を倫理的側面から考察し看護本来の価値を追求する力を養う。				
目　　標	1．看護実践における倫理の重要性を理解する。 2．倫理に関する理論や倫理原則を理解する。 3．倫理的問題へのアプローチ法を理解する。 4. 倫理的感受性を高める必要性について理解できる。				DPへの対応 ＤＰ5 ＤＰ5 ＤＰ5

授業回数〔方法〕	内容		使用教材	授業に関する準備学習
第 1 回〔講義〕	到達目標	看護実践における倫理の重要性を理解する。	テキスト① 配布資料	道徳と倫理の言葉の意味を調べる。 日常生活の中で出会っている倫理的問題を記述する。
	授業予定	ガイダンス 看護倫理とは何か、法と道徳との違い、看護倫理の必要性、看護師の最も重要な倫理的責任、看護が大切にしている価値について考える。		
第 2 回〔講義〕	到達目標	看護倫理に関係する重要な言葉の意味を理解する。	テキスト① 配布資料	看護倫理に関する重要な言葉の意味を調べる。
	授業内容	看護倫理に関する重要な言葉「和」「コンパッション:思いやりの心」「道徳的感受性と道徳的レジリエンス」「看護アドボカシー」「パターナリズム」「個人の権利」「インフォームド・コンセント」「看護情報と守秘義務」「責任と責務」を理解する。		
第 3 回〔講義〕	到達目標	「徳の倫理について理解する。	テキスト① 配布資料	「徳の倫理」「原則の倫理」「ケアの倫理」を学習する。
	授業予定	看護にとっての「徳の倫理」の意味を考え、徳の倫理の問題点と今後の課題について説明する。		
第 4 回〔講義〕	到達目標	「原則の倫理」について理解する。	テキスト① 配布資料	「意思決定」について調べる。
	授業予定	「原則の倫理」について考え、「倫理原則」の意義と問題点について説明する。		
第 5 回〔講義〕	到達目標	「ケアの倫理」について理解する。	テキスト① 配布資料	臨地実習において学生に起こりやすい倫理的課題を考える。
	授業予定	「ケアの倫理」について考え、ケアの倫理の特徴と限界について説明する。		
第 6 回〔講義〕	到達目標	日本看護協会「看護職の倫理綱領」を理解する。	テキスト① 配布資料	日本看護協会「倫理綱領」およびＩＣＮ「看護師の倫理綱領」を調べる。
	授業予定	倫理綱領の各条文の意味を実践現場における具体的な場面と関連させて説明する。		
第 7 回〔講義〕	到達目標	倫理的問題へのアプローチ法を理解する。	テキスト① 配布資料	看護職に「倫理」が重要となる理由を考える。
	授業予定	アプローチ法の種類、小西の4ステップモデルを活用し事例検討する。		
第 8 回		まとめ　終講試験(50分)		

成績評価の基準と方法		基準　：　履修規程第28条に規定する評価基準に準ずる。 方法　：　終講筆記試験100%、60%未満は再試験とする。
使用教材	テキスト	①看護学テキスト 看護倫理　小西恵美子：南江堂 ②系統看護学講座 別巻 看護倫理：医学書院ｅテキスト
	参考図書	
	その他	
授業以外の学習方法		実習中に「これでよいのかな?」「これはどうなんだろう・・・」と気になったことを、なぜ気になったのか」と振り返りましょう。
履修上の留意点		倫理は、日常の中に存在します。「なぜ気になったのか、その理由は何か、どうすることがよいことか」考える活動が倫理です。日ごろから、道徳的感受性や倫理的感受性を高めることが大切です。

科目区分	専門分野	科目名	基本看護技術Ⅰ	単位	1単位
対象学年	1学年	学期	前期・後期	時間	30時間
担当教員	①塩田 和泉 ②田中 要子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験　別府市医師会立別府青山看護学校　専任教員		
目的	基本看護技術では、看護師が患者との良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション、健康状態を把握するための観察とフィジカルアセスメント、看護の思考や行為を示すための記録といった、患者へ適切な看護を提供するための基盤となる看護技術を習得する。				
目標	基本看護技術（コミュニケーション、観察、記録、報告、フィジカルアセスメント）について理解する。				DPへの対応 DP1,2,3

授業回数〔方法〕		内容	使用教材	授業に関する準備学習
第1回〔講義〕	到達目標	看護を実践するために、看護技術を学ぶことの必要性を理解する。	テキスト 配布資料	・看護師が行う技術についてイメージしておきましょう。
	授業予定	・技術とは何か ・看護技術の特徴 ・看護技術の範囲 ・看護技術を適切に実践するための要素 ・看護技術の発展と修得のために		
第2回〔講義〕〔演習〕	到達目標	1. コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解する。 3. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解する。 2. コミュニケーションの基本的な方法について理解する。	テキスト 配布資料	
	授業内容	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4. 効果的なコミュニケーションの実際 5. コミュニケーション障害への対応		
第3回〔講義〕〔演習〕	到達目標	「看護は観察で始まり観察で終わる」の所以、看護における記録の意義および報告の重要性について理解する。	テキスト 配布資料	
	授業予定	1, 看護における観察と記録、報告 2. 看護記録の目的と留意点、その構成		
第4回〔講義〕	到達目標	1. ヘルスアセスメントの意義と目的について理解する。 2. ヘルスアセスメントの概要を理解する。	テキスト 配布資料	
	授業予定	1. ヘルスアセスメントとは 2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 3. 全体の概観 ・フィジカルアセスメントに必要な技術 ・全身状態・全体印象の把握 ・バイタルサインの観察とアセスメント ・計測		
第5回〔講義〕	到達目標	バイタルサインの観察とアセスメントについて理解する。	テキスト 配布資料	・事前に提示する課題に取り組んでおくこと。 ・解剖生理学で学んだ知識と関連付けて学習すること。
	授業予定	1. 体温の基礎知識と測定の実際 2. 脈拍の基礎知識と測定の実際 3. 呼吸の基礎知識と測定の実際 4. 血圧の基礎知識と測定の実際 5. 意識に関する基礎知識と観察の実際		
第6回〔講義〕	到達目標	1. 身体計測の実際について学ぶ。 2. バイタルサイン測定の実際について学ぶ。	テキスト①	・事前に提示する課題に取り組んでおくこと。演習は、事前
	授業予定	演習：		

		1. 身体計測 2. 体温、脈拍、呼吸、血圧測定		提示の動画学習を基本としてすすめる。
第　7　回 〔講義〕	到達目標	バイタルサイン測定の実際について学ぶ。	テキスト①	患者さんを想定した援助を行います。動画学習によるイメージトレーニングをしておきましょう。
	授業予定	演習： 1. バイタルサイン測定		
第　8　回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	バイタルサイン測定の実際について学ぶ。	テキスト①	患者さんを想定した援助を行います。動画学習によるイメージトレーニングをしておきましょう。
	授業予定	演習： 1. バイタルサイン測定		
第　9　回 〔演習〕	到達目標	呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの実際とアセスメントについて理解する。	テキスト①	＊事前課題あり。 ＊呼吸器系の解剖生理の復習をしておく。
	授業予定	1．呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際について説明し、演習を行う。 2．呼吸音の聴診とアセスメントの実際について説明し演習を行う。		
第　10　回 〔演習〕	到達目標	呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの実際とアセスメントについて理解する。	テキスト①	＊事前課題あり。 ＊呼吸器系の解剖生理の復習をしておく。
	授業予定	1．呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際について説明し、演習を行う。 2．呼吸音の聴診とアセスメントの実際について説明し演習を行う。		
第　11　回 〔演習〕	到達目標	循環器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメントについて理解する。	テキスト①	＊事前課題あり。 ＊循環器系の解剖生理の復習をしておく。
	授業予定	1．循環器系のフィジカルアセスメントの実際について説明し、演習を行う。 2．心音の聴診とアセスメントの実際について説明し、演習を行う。		
第　12　回 〔演習〕	到達目標	循環器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメントについて理解する。	テキスト①	＊事前課題あり。 ＊循環器系の解剖生理の復習をしておく。
	授業予定	1．循環器系のフィジカルアセスメントの実際について説明し、演習を行う。 2．心音の聴診とアセスメントの実際について説明し、演習を行う。		
第　13　回 〔講義〕	到達目標	腹部のフィジカルイグザミネーションについて理解、実施しアセスメントできる。	テキスト①	＊事前課題あり。 ＊腹部の解剖生理について復習しておく。
	授業予定	1．腹部の聴診・触診とアセスメントの実際を説明し演習を行う。		
第　14　回 〔講義〕	到達目標	運動器系のフィジカルイグザミネーションについて理解する。		＊事前課題あり。 ＊筋骨格器系の解剖生理について復習しておく。
	授業予定	1．筋骨格系のフィジカルアセスメントの実際を説明する。		
第　15　回 〔講義〕	到達目標	脳神経系のフィジカルイグザミネーションについて理解する。		＊事前課題あり。 ＊脳神経系の解剖生理について復習しておく。
	授業予定	1．脳神経系のフィジカルアセスメントの実際を説明する。		
第　16　回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準　：　履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。		

		方法　： ・終講試験は、100%の試験とし 60%未満は再試験とする。 ・終講試験(100 点満点)は、筆記試験 70 点、技術試験 30 点で実施する。内訳は以下の通り。 （筆記試験：70 点） 　　＊コミュニケーションとは（10 点） 　　＊観察・記録・報告(20 点) 　　＊フィジカルアセスメント(40 点) （技術試験：30 点） 　　＊バイタルサイン測定（30 点） 　・筆記試験・技術試験は、別日程の実施とする。
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ：医学書院 e テキスト ②系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学：医学書院 e テキスト
	参考図書	＊看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント：メディックメディア ＊e ナーストレーナー　フィジカルアセスメント（ブックライブラリー・ビデオライブラリー） ＊ビジュランクラウド
	その他	
授業以外の学習方法		・呼吸や脈拍の測定、血圧測定、呼吸音の聴診などは患者を想定した練習が欠かせません。家族や友人、学生同士など協力してもらい、練習を重ねましょう。 ・演習時間内で不十分だった技術については放課後など時間を使って十分に練習すること。
履修上の留意点		・患者さんに安全・安心を提供する看護技術は、練習を積み重ねることで修得できるものです。

科目区分	専門分野	科目名	基本看護技術Ⅱ	単位	1単位
対象学年	1学年	学期	前期・後期	時間	30時間
担当教員	①田中 要子 ②岡部 裕美	実務経験 関連資格	病院における看護師経験　別府市医師会立別府青山看護学校　専任教員		
目的	医療現場や療養の場において、患者の生命や健康状態を脅かす因子について理解するとともに、医療事故の発生を予防するための対策について理解する。看護師がケアを必要とする対象者に対して的確に応えるには、看護的な視点で課題を見出して援助する必要がある。この科目では、健康課題をもつ対象者への看護の必要性とケアを提供する過程を根拠に基づいて考え、計画的に看護介入する基礎的な方法を学ぶ。				
目標					DPへの対応
	1．看護における安全の意義を理解し、安全を守るための技術を習得する。				DP3,5
	2．看護過程の概念と意義を理解する。				DP3,6
	3．看護過程の展開方法（アセスメント,看護診断,看護計画,実施,評価）を理解する。				DP3,5
	4．看護計画立案（看護診断,期待される成果,看護介入）の方法を理解する。				DP3
	5．科学的根拠に基づいた問題解決方法を理解する。				DP3,6

授業回数〔方法〕	内容		使用教材	授業に関する準備学習
第1回〔講義〕	到達目標	医療における危険要因や療養生活に潜む事故、感染予防対策について理解する。	テキスト① 配布資料	衛生的手洗いの手技を予習する。
	授業予定	1．ガイダンス 2．事故防止の技術として、医療における危険要因、療養生活の安全確保、安全対策について説明する。 3．感染の定義、感染予防の原則、スタンダードプリコーションについて説明する。		
第2回〔演習〕	到達目標	手術時手洗い、滅菌手袋、滅菌ガウンの装着方法を理解する。	テキスト① 配布資料	滅菌手袋、滅菌ガウンの着脱の動画を見て手順や注意点を確認する。
	授業内容	手術時手洗いの方法、滅菌手袋、滅菌ガウンの着脱の技術を説明する。		
第3回〔演習〕	到達目標	個人防護用具(ＰＰＥ)の着脱について理解する。	テキスト① 配布資料	個人防護用具の着脱の動画(P74～76)を見て手順を把握する。
	授業予定	個人防護用具(手袋、マスク、ガウン、ゴーグル、フェイスシールド)の着脱、感染性廃棄物の取り扱いについて説明する。		
第4回〔演習〕	到達目標	滅菌物の取り扱いと無菌操作の方法を理解する。	テキスト① 配布資料	
	授業予定	無菌操作(滅菌バックの開封、滅菌包装の開き方、清潔区域の作成、滅菌物の取り出し方、鉗子・鑷子の取り扱い)の技術を説明する。		
第5回〔演習〕	到達目標	感染予防の種類と方法について理解する。	テキスト① 配布資料	
	授業予定	感染経路別予防策、消毒薬と滅菌法、消毒薬の種類、滅菌法の種類について説明する。		
第6回〔講義〕	到達目標	看護過程を構成する5段階を理解する。	テキスト① ② 参考図書	看護がみえる vol4 看護過程の展開 P170.172.174.180~189を読んでおく。
	授業予定	1．ガイダンス 2．看護過程の概要として、看護過程とはなにか、看護理論とのつながり（看護の視点）を説明する。		
第7回〔講義〕〔演習〕	到達目標	看護アセスメントの意義と方法を理解する。	テキスト② 参考図書	基礎情報用紙を記入する
	授業予定	アセスメントの枠組み、問題を明らかにするための意図的・系統的な情報収集、情報の整理と分析について説明する。		
第8回〔講義〕〔演習〕	到達目標	アセスメントの方法（情報解釈と分析）を理解する。	参考図書	アセスメントシートを記入する
	授業予定	ゴードンの11の機能的健康パターンを用いたアセスメント（情報の解釈、分析、判断）の記述方法を説明する。		
第9回	到達目標	アセスメントの方法（情報解釈と分析）を理解する。	参考図書	アセスメントシート

〔講義〕 〔演習〕	授業予定	ゴードンの 11 の機能的健康パターンを用いたアセスメント（情報の解釈、分析、判断）の記述方法を説明する。		を記入する
第 10 回 〔講義〕	到達目標	統合的なアセスメントの考え方を理解する。	テキスト②	
	授業予定	患者の健康状態や生活が変化した経緯（問題が生じた原因や誘因、成り行き）の記述について説明する。		
第 11 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	統合的なアセスメントの記述方法を理解する。	配布資料	統合アセスメントシートを記入する
	授業予定	患者の健康状態や生活が変化した経緯（問題が生じた原因や誘因、成り行き）の記述について説明する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	健康問題を明確化する方法（看護診断）を理解する。	テキスト④ 配布資料	
	授業予定	アセスメントにより導き出された看護上の問題を表現する方法（看護診断）と優先順位について説明する。		
第 13 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	期待される成果（アウトカム）の記述方法を理解する。	テキスト④ 配布資料	
	授業予定	看護診断-NIC（看護介入）-NOC（看護成果）の連動、期待される成果（アウトカム）の表現方法について説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	看護計画の立案について理解する。	参考図書 配布資料	
	授業予定	標準看護計画、クリティカルパス、看護計画の書き方を説明する。		
第 15 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	看護実践の記述と期待される成果の評価、看護計画を修正する方法を理解する。	配布資料	
	授業予定	評価の視点を用いた看護計画の見直し、計画を修正する方法、期待される成果の到達度判定について説明する。		
第 16 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 ： 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 ： 終講試験は、100%の試験とし 60%未満は再試験とする。 終講試験 100 点満点の内訳は以下のとおりとする。 第 1 回～5 回(感染予防と安全管理:10 時間)は筆記試験 50 点。 第 6 回～15 回(看護過程:20 時間)は 50 点。その内訳は、看護過程演習課題 30 点、筆記試験２０点とする。 看護技術(無菌操作)については、日常生活援助技術Ⅱの排泄の単元で導尿の技術試験を実施するなかで確認する。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②（医学書院）：医学書院 e テキスト ②系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　基礎看護学④（医学書院）：医学書院 e テキスト ③系統看護学講座　別巻　看護情報学（医学書院）：医学書院 e テキスト ④看護診断ハンドブック第 12 版　リンダ J.カルペニート著　医学書院		
	参考図書	看護がみえる vol 4　看護過程の展開		
	その他	看護過程演習では、授業で自然気胸患者の看護過程の展開を学び、終講時に糖尿病患者の看護過程に関する課題レポートを提出する。		
授業以外の学習方法		授業で学んだことを活用し、日常においても安全な生活を送るために感染防止の技術を練習する。		
履修上の留意点				

科目区分	専門分野	科目名	日常生活援助技術Ⅰ	単位	1単位
対象学年	1学年	学期	前期	時間	30時間
担当教員	芦刈 美佳 田中 要子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校		
目的	暮らしの場の多様化により看護師は様々な場で療養する人々に対して、日常生活を整えるための援助を、健康状態やニーズに応じて実施する必要がある。この科目では、療養環境を快適に保つための「環境調整」、生活の基本である「活動と休息」、安らげる生活環境を提供するための「安楽確保」について理解を深め、対象の多様性に応じた援助を行う力をつける。				

目標		DPへの対応
	1．快適な療養環境について理解できる。	ＤＰ3
	2．病室の環境のアセスメントと快適な環境調整の方法を学ぶ。	ＤＰ3
	3．ベッドメーキングの方法を理解する。	ＤＰ3
	4．臥床患者のリネン交換の方法を理解する。	ＤＰ3
	5．人が健康的な生活を送るために必要な活動と休息のメカニズムを理解する。	ＤＰ3
	6．活動の援助として体位変換の援助、車いすやストレッチャーなどの移乗や移送の実際の方法を学ぶ。	ＤＰ3
	7．人間にとって最も優れた休息の方法である睡眠の援助について学ぶ。	ＤＰ3
	8．安楽の援助技術について理解する。	ＤＰ3

授業回数〔方法〕		内容	使用教材	授業に関する準備学習
第1回〔講義〕（芦刈）	到達目標	療養生活における環境とは何か理解する。	テキスト①	テキストを読んでおくこと。
	授業予定	1．ガイダンス 2．病室内にあるベッドなどの物品について理解できる。 3．療養環境についてアセスメントする。		
第2回〔講義〕（芦刈）	到達目標	基本的なベッドメーキングが実施できる。 療養環境を整えることができる。	テキスト①	テキストを読んでおくこと。教員作成動画を視聴しておく。
	授業内容	基本的なベッドメーキングを実施する		
第3回〔講義〕〔演習〕（芦刈）	到達目標	第2回に同じ	〃	〃
	授業予定	第2回に同じ		
第4回〔講義〕〔演習〕（芦刈）	到達目標	第2回に同じ	〃	〃
	授業予定	第2回に同じ		
第5回〔講義〕〔演習〕（芦刈）	到達目標	患者が安全・安楽に過ごすための環境整備ができる。	〃	〃
	授業予定	患者の安全・安楽な療養環境を整えるための環境整備を実施する。		
第6回〔講義〕〔演習〕（芦刈）	到達目標	臥床患者のリネン交換が実施できる。	テキスト①	テキストを読んでおくこと。教員作成動画を視聴しておく。
	授業予定	基本的な臥床患者のリネン交換を実施し、患者の安全・安楽について考える。		
第7回〔講義〕〔演習〕（芦刈）	到達目標	第6回に同じ	〃	
	授業予定	第6回に同じ		
第8回〔講義〕（田中）	到達目標	基本的活動の基礎知識を理解する。	テキスト①	
	授業予定	1．ガイダンス 2．良い姿勢・ボディメカニクスについて説明する。		

第　9　回 〔講義〕 〔演習〕 （田中）	到達目標	体位と体位変換の技術を学ぶ。	テキスト①	テキスト動画、e ナーストレーナー No4 活動・休息援助技術→No1 体位変換の視聴をする
	授業予定	1．体位の実際（立位、座位、臥位、膝胸位、骨盤高位、砕石位）を説明する。 2．体位変換の実際を説明し演習を行う。　（ボディメカニクスを使って） 仰臥位⇒側臥位　側臥位⇒仰臥位　仰臥位⇒長座位 長座位⇒端座位　端座位⇒仰臥位　端座位⇒立位 仰臥位⇒ファウラー位　上方移動　水平移動		
第　10　回 〔講義〕 〔演習〕 （田中）	到達目標	移動、移乗、移送の技術を学ぶ	テキスト①	e ナーストレーナー No4 活動・休息援助技術→No2,3,4 の視聴をする
	授業予定	1．杖、歩行器を用いた歩行の援助方法を説明する 2．車いす、ストレッチャーへの安全な移乗と移送の方法を説明する		
第　11　回 〔講義〕 （田中）	到達目標	第１０回に同じ	テキスト①	〃
	授業予定	第１０回に同じ		
第　12　回 〔講義〕 （田中）	到達目標	1．廃用症候群とそれを予防する「活動」の方法について理解する。 2．褥瘡好発部位とその予防の方法を理解する。 3．睡眠と休息の援助について理解する	テキスト①	e ナーストレーナー No4 活動・休息援助技術→No5、苦痛の緩和・安楽確保の技術→No1 体位保持の視聴をする
	授業予定	1．廃用症候群について説明する。 2．関節可動域訓練、筋力強化訓練について説明する。 3．褥瘡好発部位とその予防の方法を説明する。 4．睡眠の種類・メカニズム・アセスメントの方法について説明する 5．睡眠・休息の援助について説明する		
第　13　回 〔講義〕 （田中）	到達目標	1．廃用症候群を予防する援助技術を学ぶ 2．睡眠・休息の援助技術を学ぶ	テキスト①	〃
	授業予定	1．関節可動域訓練の援助を実施する 2．体位保持の援助を実施する		
第　14　回 〔講義〕 〔演習〕 （田中）	到達目標	1．安楽とは何か理解する 2．温罨法・冷罨法の技術を学ぶ	テキスト①	e ナーストレーナー No5 苦痛の緩和・安楽確保の技術→No3,4 の視聴をする
	授業予定	1．ガイダンス 2．安楽の援助の種類と技術について説明する。（ポジショニング・リラクゼーション・タッチング・マッサージ） 3．温罨法・冷罨法の援助技術を説明し、実施する		
第　15　回 〔講義〕 〔演習〕 （田中）		第１４回に同じ	テキスト①	〃
		第１４回に同じ		
第　16　回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準　：　履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法　： ・終講試験は、100%の試験とし 60%未満は再試験とする。 ・終講試験(100 点満点)内訳は以下の通り 第 1 回～7 回 環境調整(50 点)→内訳、筆記試験 20 点、技術試験(リネン交換)30 点とする。 第 8 回～13 回　活動と休息(筆記試験 40 点) 第 14 回、15 回　安楽確保(筆記試験 10 点) ・筆記試験・技術試験は、別日程の実施とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ：医学書院		
	参考図書	看護覚え書き		

		看護技術がみえる：メディックメディア
	そ　の　他	
授業以外の学習方法		初めての看護技術の習得は、時間をかけた練習が重要である。各自練習を積み重ねること。
履修上の留意点		実習室でのみだしなみや演習態度、課題に取り組む姿勢などは評価に含まれ、終講試験の結果から減点する。 終講試験で合格していた学生であっても、技術試験の結果が不十分と思われる学生は、再チェックを行う。

科目区分	専門分野	科目名	日常生活援助技術Ⅱ	単位	2単位
対象学年	1学年	学期	前期・後期	時間	60時間
担当教員	芦刈 美佳 服平 敏枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校　専任教員		
目的	暮らしの場の多様化により、看護師は様々な場で療養する人々に対して、日常生活を整えるための援助を健康状態やニーズに応じて実施する必要がある。この科目では、生命を維持し健康状態を良好に保つための「食事」、「排泄」、皮膚の生理機能を整え心地よさを感じるための「清潔と衣生活」について理解を深め、対象の多様性に応じた援助を行う力をつける。				

目標		DPへの対応
	1．清潔援助の効果と全身への影響を理解する。 2．対象にあった清潔援助方法について理解する。 3．清潔援助に関する基礎技術を理解する。 4．衣生活援助に関する基礎技術を理解する。	ＤＰ３ ＤＰ２、３ ＤＰ３ ＤＰ３
	5．食事の意義と食事のアセスメントの視点を理解する。 6．食事摂取への影響要因を理解し、対象に応じた援助をかんがえることができる。 7．非経口的栄養摂取の目的、方法を理解する。	ＤＰ3 ＤＰ3 ＤＰ3
	8．排泄の意義、メカニズム、アセスメントの視点について理解する。 9．対象に応じた排泄の援助および器具について理解する。 10. 床上排泄の援助、摘便、浣腸、導尿の援助方法を理解する。 11. 援助を受ける患者の心理に気づき、気づきを活用した配慮や姿勢について理解する。	ＤＰ３ ＤＰ３ ＤＰ３ ＤＰ２、５

授業回数〔方法〕		内容	使用教材	授業に関する準備学習
第1回〔講義〕（芦刈）	到達目標	1．清潔援助に必要な基礎知識を理解する。 2．全身の清潔援助の方法について理解する。	テキスト P170~177、P178~232、ワークシート	・ワークシートに基づき、皮膚の構造と機能を復習する。 ・テキストを読んでおく。
	授業予定	・身体清潔の意義、皮膚の構造と機能、洗浄剤の作用、清潔行動のアセスメントについて説明する。 ・衣生活の意義、衣服調整のアセスメント、清潔援助の方法(全身:入浴、シャワー浴、清拭、洗髪、整容、結髪、髭剃り、洗面、眼・耳・鼻)について理解する。		
第2回〔講義〕（芦刈）	到達目標	1. 寝衣交換（和式寝衣、点滴をしている患者の和式寝衣、丸首パジャマ）を安全安楽に実施できる。	テキスト P224~232、ワークシート	・動画２種類①和式寝衣交換②点滴をしている患者の和式交換）を視聴し予習する。 ・テキストを読んでおく
	授業内容	①教員作成動画を視聴し、実施する ②演習はワークシートに基づき実施し、振り返り、自己の課題を明確にする。寝衣の特徴やたたみ方等について学ぶ。		
第3・4回〔講義〕（芦刈）	到達目標	1.全身清拭（熱布清拭）と寝衣交換が、患者の体力の消耗を最小限にしながら、安全安楽に実施できる。	テキスト P184~189、P227~232、ワークシート	・動画（数種類あり）を視聴し予習する。 ・テキストを読んでおく。
	授業予定	①教員作成動画を視聴し、実施する。 ②演習は、部分演習と全体演習を行う。原理原則を踏まえてワークシートに基づき実施する。使用物品を適切に取り扱う。		
第5・6回〔演習〕（芦刈）	到達目標	1.全身清拭と寝衣交換の一連の動作が、患者の体力の消耗を最小限にしながら安全安楽に実施できる。	テキスト P184~189、P227~232、チェックリスト	・授業までに前回の演習後の振り返りを基に課題を明確にし、対策を考えておく。 ・動画を視聴して予習しておく。
	授業予定	①演習は全体演習を行う。 ②演習は、チェックリストを基に実施し、振り返りを自己の課題を明確にする。 ※この授業の一連の流れが技術試験の内容になります。		
第7・8回〔演習〕	到達目標	1. 洗髪(ケリーパッド・洗髪車）が、患者の体力の消耗を最小限にしながら安全安楽に実施できる。	テキスト P190～198	・動画「洗髪」を視聴して予習してお

（芦 刈）	授業予定	①教員作成動画を視聴し、実施する。 ②演習は、ワークシートを基に実施し、振り返りを自己の課題を明確にする。原理原則を踏まえること。	ワークシート	く。 テキストを読んでおく。
第 9・10 回 〔 演 習 〕 （ 芦 刈 ）	到達目標	１．手浴・足浴とフットケア(保湿剤塗布）を安全安楽に実施し、かつ温熱効果やリラクゼーション効果を与えることができる。	テキストＰ199～204 ワークシート	・動画「手浴・足浴とフットケア」を視聴しておく。 ・テキストを読んでおく。
	授業予定	①教員作成動画を視聴し、実施する ②演習は、ワークシートを基に実施し、振り返り自己の課題を明確にする。原理原則を踏まえること。		
第 11・12 回 〔 演 習 〕 （ 芦 刈 ）	到達目標	1. 口腔ケアと義歯洗浄を安全安楽に実施することで、爽快感を得ることができる。 2. 整容と洗面(目耳鼻、爪切り、髭剃り、ドライシャンプー）を安全安楽に実施することで、爽快感を得ることができる。	テキスト Ｐ207～223 ワークシート	・動画「整容、口腔ケア、義歯洗浄他」を視聴しておく ・テキストを読んでおく。
	授業予定	①教員作成動画を視聴し、実施する。 ②演習は、ワークシートを基に実施し、振り返り自己の課題を明確にする。原理原則を踏まえること。		
第 13. 14 回 〔 演 習 〕 （ 芦 刈 ）	到達目標	１．陰部洗浄を安全安楽に実施できる。	テキスト Ｐ204～207 ワークシート	・動画「陰部洗浄」を視聴しておく ・テキストを読んでおく。
	授業予定	①教員作成動画を視聴し、実施する。 ②演習は、ワークシートを基に実施し、振り返り自己の課題を明確にする。原理原則を踏まえること。		
第 １５ 回 〔 講 義 〕 （ 芦 刈 ）	到達目標	１．食事の意義を理解し、対象の食行動についてのアセスメントについて学ぶ。 ２．食事の種類について理解する。	テキスト① テキスト② テキスト③	
	授業予定	１．ガイダンス ２．栄養状態及び摂取能力、食欲や食に対する認識のアセスメントについて説明する。 ３．病院で提供される食事の種類と形態について、説明する。		
第 １６ 回 〔 講 義 〕 〔 演 習 〕 （ 芦 刈 ）	到達目標	食事援助の方法を理解する。	テキスト① テキスト③	
	授業予定	１．食事援助の方法について説明する。 ２．食事援助の実際について演習を行う。		
第 １７ 回 〔 講 義 〕 〔 演 習 〕 （ 芦 刈 ）	到達目標	第 16 回に同じ	〃	
	授業予定	第 16 回に同じ		
第 １８ 回 〔 講 義 〕 （ 芦 刈 ）	到達目標	摂食嚥下訓練について理解する。	テキスト①	
	授業予定	食欲、摂食能力（食行動、嚥下)、嚥下障害、摂食嚥下訓練について説明する。		
第 １９ 回 〔 講 義 〕 （ 芦 刈 ）	到達目標	非経口的栄養摂取の方法（経管栄養法・中心静脈栄養法・胃ろう）について理解する。	テキスト①	
	授業予定	非経口的栄養法の種類と管理の方法について説明する。 （経管栄養法・中心静脈栄養法・瘻管法）		
第 ２０ 回 〔 講 義 〕 （ 芦 刈 ）	到達目標	経管栄養法における安全安楽な栄養物の注入について理解する。	テキスト①	
	授業予定	１．安全安楽な経鼻胃チューブの挿入について説明する。 ２．経管栄養法における栄養物の注入の実際（患者の準備） ３．栄養物の準備　栄養物の注入　胃管の管理と患者の観察）		
第 ２１ 回	到達目標	１．排泄の意義、メカニズム、観察、アセスメントを理解す	テキスト	・人間の飲食がどの

〔講義〕 〔演習〕 （服平）		る。 ２．床上排泄に使用する用具と使用方法について理解する。 ３．排泄援助をうける対象者の心理を考え、援助を行う看護師としての基本的姿勢を理解する。	配付資料 冬期課題学習	ように人体を通過し、排泄に至るのかを、既習した人体の構造と機能とに関連づけ復習する。 ・自身の排泄(尿・便)について、頻度や性状を記録することで排泄状態を知り、健康のバロメーターと言われるゆえんを考える。
	授業予定	①排泄の意義、メカニズム、観察、アセスメントを理解し、自身の気づきを活用する。 ②メカニズムについては、既習を活用する。		
第２２回 〔講義〕 〔演習〕 （服平）	到達目標	自然な排泄を促す援助を、対象者の安全・安楽・自立・個別性を考慮し、援助を考えることができる。	テキスト 配付資料	・おむつ着用体験を行う（課題済） ・日ごろ、排泄に関することで気になっていることや排泄のイメージなどを考える。
	授業予定	①自然排泄(トイレ排泄、ポータブルトイレ排泄、床上排泄:便器尿器使用、おむつ使用)の方法を理解し、安全・安楽・自立・個別性について考える。 ②演習する看護技術の援助計画を立案する。		
第２３回 〔講義〕 （服平）	到達目標	１．自然な排泄を促す援助を、対象者の安全・安楽・自立・個別性を考慮し、援助を考えることができる。 ２．床上排泄(尿器・便器・おむつ)およびポータブルトイレの援助が実施できる。	テキスト 配付資料	・排泄の援助方法についてテキストを熟読する。 ・授業までに予習として、事例に応じた床上排泄の援助計画をグループでそれぞれ１つ作成し期限までに提出する。 ※ｅナーストレーナー自然排尿および自然排便の介助を視聴する。
	授業予定	１．床上排泄での援助技術 ①予習は右参照 ②演習は、立案した援助計画を基に部分演習と全体演習を原理原則をふまえて実施する。全員経験すること。 実施後、「気づき」をまとめる。		
第２４回 〔講義〕 （服平）	到達目標	第２３回に同じ	〃	〃
	授業予定	第２３回に同じ		
第２５回 〔演習〕 （服平）	到達目標	自然な排便が困難な対象者への援助ができる	テキスト 配布資料	ｅナーストレーナー浣腸、摘便を視聴する。
	授業予定	１．器具の種類と特徴 ２．器具を用いた排便の援助技術 １）浣腸 ２）摘便 ※予習は右参照		
第２６回 〔演習〕 （服平）	到達目標	第 25 回に同じ	〃	〃
	授業予定	第 25 回に同じ		
第２７回 〔演習〕 （服平）	到達目標	自然な排尿が困難な対象者への援助が実施できる	テキスト 配布資料	ｅナーストレーナー一時的導尿、持続的導尿を視聴する。
	授業予定	１．器具の種類と特徴 ２．器具を用いた排尿の援助技術 １）導尿 ２）膀胱留置カテーテル ①予習は右参照		
第２８回 〔講義〕	到達目標	第２７回に同じ	〃	〃
	授業予定	第２７回に同じ		

〔演習〕 （服平）				
第29回 〔講義〕 〔演習〕 （服平）	到達目標	1．第27回に同じ 2．排泄障害のある患者の看護を実施する	技術チェック表	一時的導尿の援助技術を確認する。
	授業予定	第27回に同じ		
第30回 〔演習〕 （服平）	到達目標	演習をとおして、排泄のニーズと援助をうける対象者の心理に気づき、その気づきを活用した配慮や姿勢について理解する		
	授業予定	1．自然な排泄を促す援助体験より、対象者の安全・安楽・自立・個別性を考慮し、援助を振り返る 2．器具を用いた排泄の援助をとおし、対象者の心理を考察する 3．看護者としての基本的姿勢を考察する		
第31回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準　：　履修規程第28条に規定する評価基準に準ずる。 方法　： ・日常生活援助技術Ⅱは2単位（60時間）であり、①清潔、衣生活（28時間）　②食事（12時間）　②排泄援助技術（20時間）で構成される。 ・終講試験は、筆記試験85%、技術試験15%の配分で実施する。 ・筆記試験の配点は　①清潔・衣生活（50%）　②食事（20%）　③排泄（30%）とし、100点/50分の試験を行う。 ・①清潔・衣生活（50%）の内訳は、筆記試験35%、技術試験(全身清拭)15%とする。 ・②③は、筆記試験のみとする ・筆記試験・技術試験は、別日程の実施とする。 ・排泄は、別日程で技術チェックを行い、成績評価は行わない。ただし、上記にある演習態度での評価は行う。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ：医学書院eテキスト ②系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学：医学書院eテキスト ③看護形態機能学第4版：日本看護協会出版会		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		皮膚の構造及び機能について知識を定着し、皮膚の清潔保持ができないと、どんな問題が起こるのか学習する。演習で撮影した技術動画を参照し、課題を明確にし、技術試験当日に向けて自己練習に励む。 排泄援助技術に関しては、開講にあたり既習した腎泌尿器や消化器の構造と機能について知識を定着させ、排泄のしくみを理解しておく。また自身の排泄に関する観察や体験を事前学習しておく。		
履修上の留意点		日本人にとっての清潔行為の意味を考慮し、満足感が得られる技術について考える。 実習室でのみだしなみや演習態度、課題に取り組む姿勢などは評価に含まれ、終講試験の結果から減点する。 技術演習は、正確な技術を安全に、患者の立場に立って行うこと。この援助が行われないと患者はどんな状態になるのか、援助の必要性を考慮して実施してください。 終講試験で合格していた学生であっても、技術試験の結果が不十分と思われる学生は、再チェックを行う。		

科目区分	専門分野	科目名	診療時援助技術	単位	2単位
対象学年	2学年	学期	前期	時間	60時間
担当教員	塩田 和泉	実務経験関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校　専任教員		
目的	診療の場面では、医療の高度化・専門化により多様な検査が行われるようになり、なかには生体侵襲による苦痛や羞恥心を伴うものがあるため、より安全で安楽な看護技術の提供が求められる。この科目では診療に伴う援助として、呼吸・循環を整える技術（6回）、創傷管理（2回）、与薬（13回）、検査（6回）、採血（3回）についての基礎的な看護技術を演習を通して習得する。（全30回）				

目標	DPへの対応
診察・検査における看護の実際と看護師の役割について理解する。 ＜呼吸・循環を整える技術＞ 1．呼吸・循環を整えるために必要な基礎知識を理解する。 2．対象者が安全・安楽に呼吸を整えるために必要な援助技術を理解する。 3．治療や処置に伴う苦痛などに配慮した援助方法を理解する。 ＜創傷管理＞ 1．創傷の治癒に必要な基礎知識を理解する。 2．創傷処置と褥瘡予防の方法を理解する。 3．包帯法の原則に則った基本的な固定を理解する。 ＜与薬＞ 1．薬物療法における看護師の役割を理解する。 2．指示された薬物を安全に与薬する方法を理解する。 3．経口与薬、直腸内与薬の援助方法を理解する。 4．安全かつ正確に注射を実施する方法を理解する。 ＜検査＞ 1．診察・検査・処置における看護師の役割について理解する。 2．各種検査の目的と方法について理解する。 3．各種検査・処置を介助する際の注意点と患者の苦痛に対する配慮を理解する。 ＜採血＞ 1．静脈血採血の方法と注意事項を理解する。 2．対象者が安全に採血を終えるために必要な技術を理解する。 3．採血を必要とする対象者に応じた援助方法について理解する。	DP2 DP3 DP4 DP5

授業回数〔方法〕		内容	使用教材	授業に関する準備学習
第1回〔講義〕	到達目標	与薬を必要とする患者への看護を理解する。	テキスト	基礎看護技術Ⅰ：誤薬防止、薬剤暴露防止を復習する
	授業予定	1．ガイダンス 2．与薬の目的と看護師の役割、薬物動態、誤薬防止、患者誤認防止、薬剤暴露防止について説明する。		
第2回〔講義〕	到達目標	内服薬、口腔内薬、外用薬を用いた安全な与薬の方法を理解する。	テキスト	eナーストレーナー（動画）：吸入、点眼、点鼻、点耳 課題プリント
	授業予定	経口与薬、直腸内与薬、経皮・外用薬の与薬を必要とする患者への援助の実際を説明する。		
第3回〔演習〕	到達目標	注射の方法と留意事項を理解する。	テキスト	
	授業予定	注射の種類と特徴、注射器・注射針の取り扱い、アンプル・バイアルの取り扱いについて説明する。		
第4回〔演習〕	到達目標	注射を必要とする対象に応じた援助方法を理解できる。	テキスト	
	授業予定	注射の準備から実施（無菌操作）、片付けまでの一連の過程のデモンストレーションを通して、対象にあった援助方法を説明する。		
第5回〔講義〕	到達目標	皮下注射の実際を理解する。	テキスト	
	授業予定	皮下注射の目的、方法、注射部位の選択の仕方、実施方法を説明する。		

第　6　回 〔 演 習 〕	到達目標	皮下注射の実際を理解する。	テキスト	
	授業予定	皮下注射の目的、方法、注射部位の選択の仕方、実施方法を説明する。		
第　7　回 〔 演 習 〕	到達目標	筋肉内注射の実際を理解する。	テキスト	
	授業予定	筋肉内注射の目的、方法、注射部位の選択の仕方、実施方法を説明する。		
第　8　回 〔 講 義 〕	到達目標	静脈内注射の実際を理解する。	テキスト	
	授業予定	静脈内注射の目的、方法、注射部位の選択の仕方、実施方法を説明する。		
第　9　回 〔 演 習 〕	到達目標	輸液の準備、輸液速度の調整方法を理解する。	テキスト	
	授業予定	クレンメを用いた自然滴下、輸液ポンプ、シリンジポンプの操作方法と安全な管理について説明する。		
第　１０　回 〔 演 習 〕	到達目標	点滴静脈内注射の実際を理解する。	テキスト	
	授業予定	点滴静脈内注射の目的、方法、固定の仕方を説明する。		
第　１１　回 〔 演 習 〕	到達目標	点滴静脈内注射の実際を理解する。	テキスト	
	授業予定	点滴静脈内注射の目的、方法、注射部位の選択の仕方、実施方法を説明する。		
第　１２　回 〔 演 習 〕	到達目標	輸血実施の手順と副作用について理解する。	テキスト	
	授業予定	輸血療法の目的、輸血用血液製剤の取り扱い、輸血の手順、副作用の原因と対策について説明する。		
第　１３　回 〔 講 義 〕	到達目標	薬物管理の方法と管理の重要性を理解する。	テキスト	
	授業予定	薬剤の管理（毒薬・劇薬・麻薬・抗悪性腫瘍剤・血液製剤）		
第　１４　回 〔 演 習 〕	到達目標	呼吸困難を軽減する方法について理解する。	テキスト	
	授業予定	呼吸管理の方法（酸素吸入療法、吸引、排痰ケア）を説明する。		
第　１５　回 〔 演 習 〕	到達目標	呼吸を安楽にする援助方法について理解する。	テキスト	
	授業内容	酸素吸入療法、吸引（一時的、持続的）、排痰ケア（体位ドレナージ、ハッフィング、スクィージング、ネブライザー、呼吸法）について説明する。		
第　１６　回 〔 演 習 〕	到達目標	酸素療法を必要とする患者への看護を理解する。	テキスト	
	授業予定	酸素供給システム（中央配管）や酸素ボンベの取り扱いの実際を説明する。		
第　１７　回 〔 演 習 〕	到達目標	安全な手技で口腔・鼻腔内・気管内の喀痰を吸引する方法を理解する。	テキスト	
	授業予定	吸引の種類と方法、吸引の適応、用途に合わせたカテーテルの選択、実施上の注意点について説明する。		
第　１８　回 〔 講 義 〕	到達目標	気管内挿管と吸引を必要とする患者への看護を理解する。	テキスト	
	授業予定	気管内挿管介助技術、持続的吸引（胸腔ドレナージ）の実際を説明する。		
第　１９　回 〔 演 習 〕	到達目標	排痰を促す必要性と援助の方法を理解する。	テキスト	
	授業予定	体位ドレナージ、ネブライザー吸入療法の実際を説明する。		
第　２０　回 〔 講 義 〕	到達目標	創傷の治癒過程をふまえた創傷管理の実際について理解する。	テキスト	
	授業予定	創傷管理の基礎知識、創傷処置・ドレーン挿入部の処置の実際を説明する。		
第　２１　回 〔 演 習 〕	到達目標	褥瘡予防の援助の実際について理解する 包帯を用いた援助を理解する。	テキスト	
	授業予定	１．褥瘡予防の基礎知識と援助の実際を説明する。 ２．包帯法（巻軸帯・三角巾での固定、包帯の巻き方）の実際を説明する。		
第　２２　回	到達目標	診察・検査・処置における看護師の役割について理解する。	テキスト	

〔講義〕	授業予定	診察の介助の実際を説明する。		
第 23 回 〔講義〕	到達目標	検査の目的と方法注意点、患者の苦痛に対する配慮について理解する。	テキスト	
	授業予定	生体検査、検体検査について説明する。		
第 24 回 〔演習〕	到達目標	検査の目的と方法、注意点、患者の苦痛に対する配慮について理解する。	テキスト	
	授業予定	簡易血糖検査、12 誘導心電図、スパイロメトリー、内視鏡検査の種類について説明する。		
第 25 回 〔演習〕	到達目標	検査を介助する際の注意点を理解する。	テキスト	
	授業予定	内視鏡検査の種類と看護師の役割について		
第 26 回 〔演習〕	到達目標	検査の目的と方法、注意点、患者の苦痛に対する配慮について理解する	テキスト	
	授業予定	X 線検査、コンピュタ断層撮影、MRI、超音波検査、核医学検査について説明する		
第 27 回 〔演習〕	到達目標	検査の目的と方法、注意点、患者の苦痛に対する配慮について理解する	テキスト	
	授業予定	胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺、胃洗浄について		
第 28 回 〔講義〕	到達目標	静脈血採血の目的と方法を理解する。	テキスト	
	授業予定	採血法の種類、器具の種類と選択、血管の選択方法、採血実施時の注意事項を説明する。		
第 29 回 〔演習〕	到達目標	静脈血採血をモデル人形に対して安全に実施できる。	テキスト	
	授業予定	真空採血管を用いた採血方法、翼状針とシリンジを用いた採血方法、対象に応じた工夫（小児・高齢者）を説明する。		
第 30 回 〔演習〕	到達目標	静脈血採血が必要な患者への看護を理解する。	テキスト	
	授業予定	真空採血管を用いた採血方法、翼状針とシリンジを用いた採血方法、対象に応じた工夫（小児・高齢者）を説明する。		
第 31 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 ： 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 ： ・「診療時援助技術」は 2 単位（60 時間）あり、5 項目（①呼吸・循環を整える技術、②創傷管理、③与薬、④検査、⑤採血）で構成される。 ・終講試験は、100%の試験とし 60%未満は再試験とする。 ・終講試験(100 点満点)内訳は以下の通り 呼吸循環を整える技術(筆記試験 15 点)　創傷管理(筆記試験 5 点)　与薬(筆記試験 45 点) 検査(筆記試験 15 点)　採血(20 点 内訳:筆記試験 5 点、技術試験(真空管採血)15 点とする。 ・筆記試験・技術試験は、別日程の実施とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護学技術Ⅱ：医学書院 e テキスト		
	参考図書	＊看護がみえる vol.1 基礎看護技術：メディックメディア ＊看護がみえる vol.2 臨床看護技術：メディックメディア ＊臨床検査ビジュアルナーシング：学研 ＊e ナーストレーナー根拠と事故防止から見た看護技術シリーズ		
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		e ナーストレーナーを予習復習に活用しましょう		
履修上の留意点		看護技術経験録に学内で演習した項目の押印をします。持参してください。		

<table>
<tr><td>科目区分</td><td>専門分野</td><td>科　目　名</td><td colspan="2">臨床判断</td><td>必須・選択</td><td>必須</td></tr>
<tr><td>学　　期</td><td>前後期</td><td>対象学年</td><td colspan="2">2 年</td><td>単位(時間)</td><td>2 単位
(30 時間)</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>岡部　裕美</td><td>実務経験と
関連資格</td><td colspan="4">病院における看護師経験、学校における授業経験</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td colspan="6">臨床判断とは、患者のニーズ、気がかり、健康問題について解釈し結論すること、また行為を起こすか起こさないかの判断、標準的な方法を行うか変更するかの判断、患者の反応から適切とその場で考え出して行う判断である（tanner,C)。その過程において、看護者の気づきが重要となる。また、看護過程で学習した対象理解の思考を活用し、対象の健康障害を理解し、看護者としての気づく力を培い、看護者のように考える思考過程を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目　　標</td><td colspan="5">1. 臨床判断のプロセスの 4 つのフェーズ「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」について理解できる。
2. 模擬患者の日常生活動作の動画を視聴して、看護上の問題に気づき、解釈し、反応、評価、省察ができる。
3. 模擬患者の健康上の問題（症候）に気づくためのアセスメントをし、必要な看護を考えることができる。
４．ファーストアセスメント（緊急レベルの判断）について理解できる。
５．ISBARC の意味と、活用方法について理解できる。</td><td>DP3
DP 1， 3， 6
DP 1， 3， 6
DP 1， 3， 6
DP 1， 3， 6</td></tr>
<tr><td>授業の
方法</td><td colspan="2">内　　容</td><td colspan="2">使用教材</td><td colspan="2">授業以外での準備学習 の具体的な内容</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第 1 回　講義</td><td>授業の
到達目標</td><td colspan="2">臨床判断能力の必要性について理解する。</td><td colspan="2" rowspan="2">・臨床看護総論 P305
・ワークシート
・アセスメントシート
・コンセプトシート</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>各コマに
おける
授業予定</td><td colspan="2">1. ガイダンス
2. 臨床判断とは何か、タナーの臨床判断モデルを活用して説明する。
3. 事例患者に対するコンセプト学習「清潔と衣生活」をもとに臨床判断について考える。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第 2 回　講義</td><td>授業の到達
目標</td><td colspan="2">SBAR（ISBARC）について説明する。
緊急度の判断について説明する。
事例患者の事前学習をする。</td><td colspan="2" rowspan="2">・ワークシート
・アセスメントシート
・コンセプトシート</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>各コマに
おける
授業予定</td><td colspan="2">1.事例患者の状態を看護師や多職種へ報告する場合は、相手の知りたい内容と自分の伝えたい内容を的確かつ簡潔に伝えるための SBAR（ISBARC)を活用する。
2. 模擬患者のファーストアセスメント（緊急レベルの判断）をする。「生命に危険な状態」「治療対処が必要な状態」「経過観察する状態」のいずれかを赤・黄・緑色で判断する。
3. 次回のコンセプト学習の事例患者の事前学習をする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第 3 ・ 4 ・ 5 回
グループワーク・演習</td><td>授業の
到達目標</td><td colspan="2">事例患者①の日常生活行動「清潔と衣生活の援助場面」を視聴し、気づき、解釈し、必要な看護を考えることができる。</td><td colspan="2" rowspan="2">・ワークシート
・アセスメントシート
・コンセプトシート</td><td colspan="2" rowspan="2">事例患者の疾患「脳梗塞」症候は「左不全麻痺」におけるフィジカルアセスメント、看護についての学習準備をします。</td></tr>
<tr><td>各コマに
おける
授業予定</td><td colspan="2">・清潔と衣生活のアセスメントができる。
・背景・コンテクストについて述べることができる。
・気づきでは、患者の全体的な情報について気づいたことを述べる。緊急レベルの判断やデータを情報として整理する。
・解釈から、患者に対する排泄の方法を考える。
・反応では、看護行為を説明できる。
・評価では、患者目標を評価し、その理由を述べる。</td></tr>
</table>

		・省察では、自己の課題を述べる。 ・SBAR(ISBARC）を活用して、報告をする。		
第６・７・８回 グループワーク・演習	授業の到達目標	事例患者②の日常生活行動「排泄の援助場面」を視聴し、気づき、解釈し、必要な看護を考えることができる。	・ワークシート ・アセスメントシート ・コンセプトシート	事例患者の疾患「腰椎圧迫骨折」・症候「腰痛（関節痛）」におけるフィジカルアセスメント、看護についての学習準備をします。
	各コマにおける授業予定	・排泄のアセスメントができる。 ・背景・コンテクストについて述べることができる。 ・気づきでは、患者の全体的な情報について気づいたことを述べる。緊急レベルの判断やデータを情報として整理する。 ・解釈から、患者に対する排泄の方法を考える。 ・反応では、看護行為を説明できる。 ・評価では、患者目標を評価し、その理由を述べる。 ・省察では、自己の課題を述べる。 ・SBAR(ISBARC）を活用して、報告をする。		
第９・１０・１１回 グループワーク・演習	授業の到達目標	事例患者③の日常生活行動「食事の援助場面」を視聴し、気づき、解釈し、必要な看護を考え、実践できる。	・コンセプトシート ・ワークシート	事例患者の疾患「脳梗塞」・症候「嚥下障害」に対するフィジカルアセスメント、看護についての学習準備をします。
	各コマにおける授業予定	・食事のアセスメントができる ・背景・コンテクストについて述べることができる。 ・気づきでは、患者の全体的な情報について気づいたことを述べる。緊急レベルの判断やデータを情報として整理する。 ・解釈から、患者に対する排泄の方法を考える。 ・反応では、看護行為を説明できる。 ・評価では、患者目標を評価し、その理由を述べる。 ・省察では、自己の課題を述べる。 ・ISBARC を活用して、報告をする。		
第１２・１３・１４回 グループワーク・演習	授業の到達目標	事例患者④の健康上の問題（症候）に気づき、不足した情報（フィジカルアセスメントをし、解釈し、必要な看護を考える。	・コンセプトシート ・ワークシート ・フィジコを活用したシミュレーション	疾患「イレウス」と症候「腹痛」を訴える患者のフィジカルアセスメント、看護についての学習準備をします。
	各コマにおける授業予定	【腹痛を訴える患者の事例】 ・症状に必要なアセスメントをし、臨床判断の思考過程に沿って考える。 ・患者の情報を的確に得るにはどのような点に注目して観察を行えばよいかを考えた上で、フィジカルアセスメントを行う。 ・演習結果をもとに、アセスメントを行った患者に対する食事・活動・清潔などといった日常生活の援助方法を考える。 ・SBAR(ISBARC）を活用して報告する。		
第 15 回　講義	授業の到達目標	まとめ 終講試験(50 分)		
	各コマにおける授業予定			
成績評価の基準と方法	終講試験４０％・レポート（コンセプトシート・ワークシート・学習レポート）５０％・態度１０％ レポート評価はルーブリック評価とする（別紙配布）			
使用教材	テキスト	看護過程に沿った対象看護　病態生理と看護のポイント　学研 臨床看護総論　医学書院		

	参考図書	アセスメントに自信がつく臨床推論入門　小沢知子　メディカ出版 臨床判断に必要な臨床推論　道又元裕　Vexon　International 病気・病態・重症度から見た疾患別看護過程+病態関連図　井上智子　医学書院　　ｅナーストレーナー 緊急度・重症度から見た症状別看護過程+病態関連図　井上智子　医学書院　ｅナーストレーナー 看護過程に沿った対症看護　高木永子　学研
	その他	持参する資料やテキスト　　治療薬マニュアル２０２２、看護過程の授業資料
授業以外での学習方法	図書室で疾患学習のためも資料を探し、準備しておきましょう。	
履修にあたっての留意点	事例①～④の疾患や症候、薬剤、検査データ、看護ケアについての事前学習を毎回することになります。	

科目区分	専門分野	科目名	看護研究	単位	1単位
対象学年	2学年	学期	前期	時間	30時間
担当教員	貞清 瑞枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校　専任教員		
目的	自分の看護実践を振り返りながら看護研究（ケーススタディ）に取り組むことで、方法論としての看護の探求や看護の対象についての理解を深める。また、研究論文の文献検索、自分が実践した看護の省察、批判的思考、論理的な記述の方法について学ぶ。				
目標					DPへの対応
	1．研究の意義と必要性を理解する。				DP4、DP6
	2．研究の種類、研究方法を理解する。				DP3
	3．文献の活用方法を理解する。				DP3
	4．研究的な視点で実践した看護を振り返る方法を理解する。				DP1、DP3、DP6

授業回数〔方法〕		内容	使用教材	授業に関する準備学習
第1回〔講義〕	到達目標	看護研究の特徴、研究の意義を理解する。	テキスト	
	授業予定	1．ガイダンス 2．学術研究としての看護研究やEBNについて説明する		
第2回〔講義〕	到達目標	看護研究と看護実践の関係性を理解する。	テキスト	
	授業内容	研究デザインの概要として、研究の種類と特徴や倫理的配慮について説明する。		
第3回〔講義〕〔演習〕	到達目標	文献検索と文献検討の方法を理解する。	テキスト P50～83	興味のある看護研究論文を探し、レジュメを書く
	授業予定	看護研究論文の構成、文献の検索(Ｗｅｂ検索)の方法、文献の読み方、整理の仕方（レジュメについて）を説明する。		
第4回〔講義〕〔演習〕	到達目標	文献を批判的に読む方法を理解する。	テキスト P52,65～70	
	授業予定	文献査読（クリティーク）の実践を通して、批判的思考とは何か、批判的吟味の視点（妥当性・信頼性・適用性）を説明する。		
第5回〔講義〕	到達目標	研究計画書の書き方を理解する。	テキスト	
	授業予定	リサーチクエスチョン（RQ）とはなにか、研究テーマの設定と研究計画書の構成、引用のルールを説明する。		
第6回〔講義〕	到達目標	ケーススタディの方法を理解する。	テキスト 参考図書	
	授業予定	ケーススタディの構成、書き方、発表方法を説明する。		
第7回〔講義〕〔演習〕	到達目標	自分の看護実践を振り返り、探究的な学習方法を理解する。	参考図書	
	授業予定	看護学実習での看護体験を想起し、ケーススタディの動機や目的を考える。RQに関連する先行研究の文献検索を行う。		
第8回〔講義〕〔演習〕	到達目標	ケーススタディの目的が理解できる。	参考図書	
	授業予定	グループワークにて、RQやケーススタディの構想について検討をする。		
第9回〔講義〕〔演習〕	到達目標	研究計画書の書き方が理解できる。	テキスト 参考図書	
	授業予定	ケーススタディの研究計画書を書く。		
第10回〔講義〕〔演習〕	到達目標	ケーススタディの執筆方法が理解できる。	参考図書	
	授業予定	担当教員の助言を得ながらケーススタディに取り組む。		
第11回〔演習〕	到達目標	ケーススタディの執筆方法が理解できる。	参考図書	
	授業予定	担当教員の助言を得ながらケーススタディに取り組む。		
第12回〔演習〕	到達目標	ケーススタディの執筆方法が理解できる。	参考図書	
	授業予定	担当教員の助言を得ながらケーススタディに取り組む。		
第13回〔演習〕	到達目標	ケーススタディの発表準備ができる。		
	授業予定	発表用原稿の作成や、補助資料の作成をする。		
第14回	到達目標	科学的・論理的な視点で看護行為を考えることができる。		

〔 演 習 〕	授業予定	ケーススタディの口頭発表、質疑応答をする。		
第 15 回 〔 演 習 〕	到達目標	科学的・論理的視点で看護行為を考えることができる。		
	授業予定	1．ケーススタディの口頭発表、質疑応答をする。 2．看護研究の意義と看護師の役割のまとめ		
成績評価の基準と方法		基準 ： 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 ： 研究計画書と研究論文（ケーススタディ）の内容 70%、文献検索とクリティーク 10%、授業に取り組む姿勢（個人ワーク、グループワーク）10%、課題の発表と質疑応答 10%、合計 60%未満は再試験を行う。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究（医学書院）：医学書院 e テキスト		
	参考図書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（大日本印刷株式会社）		
	その他			
授業以外の学習方法				
履修上の留意点				